

令和7年度第1回箕面市支援教育充実検討委員会 議事録

日時：令和7年7月2日（水）午後6時30分から午後8時00分

場所：オンライン開催

出席者：伊丹委員長、野口委員、小田委員、辻野委員、俵積田委員、金城委員、楠橋委員、城内委員、小山委員、末廣委員、ゆうやけの会代表者、つばさの会代表者、新居教員（小学校通級担当者）、文教員（中学校通級担当者）

事務局：藪本局長、三島副部長、高取学校教育監、濱口担当副部長、乾人権施策室長、新井学校教育室長、赤城児童生徒指導室長、北川教職員人事室長兼教育センター所長、大上保育幼稚園総務室担当室長

人権施策室：田口室長補佐、脇参事、山北参事

傍聴者：3名

1. 開会

（伊丹委員長）

それでは定刻となりましたので、令和7年度第1回箕面市支援教育充実検討委員会を開催いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます、委員長の伊丹でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、昨年度に引き続き、通級担当者として小学校で通級を担当されている新居教員と中学校で通級を担当されている文教員にもご参加いただきます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事に入ります。「案件1. 箕面市支援教育方針の進捗について」でございます。事務局より説明をお願いいたします。

2. 議事

案件1 箕面市支援教育方針の進捗について

（事務局：田口室長補佐）

○資料1（1. 学びの場の充実について）に基づいて事務局から説明。

（伊丹委員長）

ありがとうございました。

それでは、検討の際の視点としてあげられている「LITALICO 教育ソフトの活用を教職員全体に普及するためには」について、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

（城内委員）

LITALICO 教育ソフトについては、小・中学校の連携にもつながるので、非常に活用させていただいております。一方で、現場が困っているのは、アンケートについてです。箕面市では LITALICO 教育ソフト、東京書籍の i-check、PBS（Positive Behavior Support：ポジティブな行動支援）のアンケートもあり、それらに加えて校内での授業アンケートも行っています。例えば、第一中学校では4つのアンケートを1学期に行いました。子どもを支援していくなかで、アンケートが沢山あると分かりにくくなっているのが実状で、現場でも色々ご意見をいただいております。

（伊丹委員長）

ありがとうございます。

他に何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

（楠橋委員）

アンケートに関しては、城内委員がおっしゃったように、小学校でも同時期に複数のアンケートが行われますので、子どもたちにとっても担任にとっても、なかなか大変だと思っています。

す。内容が似ているものも多いので、同じような内容のものは一本化するなど、何か工夫が必要だと思っています。

また、まなび教材やまなび動画については、実際はまだ使いこなせていないところもありますが、沢山の教材や動画がありますのでこれから教職員に広めていけたらと思っています。

（新居委員）

私も、LITALICO 教育ソフトについては、小・中学校の連携や異動してもスムーズに共有ができるという点で、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成が大きく変化して良かったと感じています。また、豊川南小学校は検証加配校なので、検証加配校の個人レポートもありますが、回答率が約5割程度となっており、そのなかで担任の先生が自分のクラスを分析するのは、数として少し難しいところがあるのではないかと感じています。

（文委員）

中学校の通級では、小学校から中学校に上がる際のスムーズな引き継ぎ等に活用できているので、非常にありがたいと思っています。ただその反面、以前使っていた個別の教育支援計画とは使い勝手が異なり、例えば、短期目標の場所が違う等がありますので、教職員の方々にとってはまだ少し使いづらさがあるかもしれません。今後は、そのような改善の部分を協議できたら嬉しく思います。

（伊丹委員長）

ありがとうございました。

個別の教育支援計画、個別の指導計画の話が出ましたが、個別の教育支援計画に関しては保護者のかたの参画が求められていますが、保護者会のかたから何かご意見いただけますでしょうか。

（ゆうやけの会代表）

学校の先生から、「何か個別で相談するときはこのような形で進めさせていただきます」とプリントと一緒にご説明いただき、子どもの状況を分かりやすくお伝えいただいているので、特に不満なくスムーズに活用させていただいています。

（伊丹委員長）

ありがとうございます。活用していただけているというのは、ありがたいですね。

（つばさの会代表者）

小学生の時にアンケートを実施して、それを基に作成いただいた個別の教育支援計画、個別の指導計画を、中学校のほうにも引き継ぎをしていただいて、とてもスムーズに支援担当の先生とお話ができて大変ありがたく思いました。その情報を蓄積していくことで、子どもの成長が把握できて、子ども本人や保護者にとっても今後の成長への自信につながっていくのではないかと考えています。

（伊丹委員長）

ありがとうございます。

保護者のかたから、肯定的なご意見をいただきまして本当に良かったです。ただ、アンケートが多いという課題が浮き彫りになりましたので、このあたりは改善が必要だと思います。

野口委員からもご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（野口委員）

まず、1点お聞きしたいのですが、アンケートへの負担感について、どのあたりに負担を感じているのかをお伺いしてもよろしいでしょうか。

(事務局：脇参事)

箕面市では、子どもの分析をするにあたって、沢山のアンケートを行っているのですが、どのアンケートを主軸にしながら学級を分析していくのかという点で悩まれているのだと思います。私も、昨年支援教育コーディネーターとして中学校で行っていましたが、何を目的として、どのアンケート結果をもとに分析していくのかというところで、アンケートの精選も必要かもしれないし、また分析するほうもどれをメインに活用していくのか悩まれている部分があると感じております。

(野口委員)

ありがとうございます。

私は、アンケートを実施することの意味はフィードバックだと思っていて、アンケートの結果をもとに、その次にいかにつなげていくかということが何より大事だと思います。例えば、私が関わっている戸田市の場合、箕面市と同じように沢山のアンケートを実施していますが、アンケートをダッシュボード化して、同じ画面で全てのアンケートが統合して見れるような形をとっています。例えば、Q-U (Questionnaire-Utilities：楽しい学校生活を送るためのアンケート) の結果や出席率、生徒指導の数など、あらゆるデータを統合して、学級経営や学校経営、個々の子どもたちに対する支援の施策等を考える際に一覧で見られるようなものを開発しています。戸田市の場合は、これを市が独自で行っているのですが、すぐに実現することは難しいと思いますが、今後検討していくのも一つだと思います。

また、結局アンケート結果をうまく活用できなければ、アンケートをとる意味はないと思うので、アンケートが今どのように活用できていて、どんなアンケートが活用しづらいのかを明らかにするような調査が実施できれば良いのではないかと思います。先ほど、アンケート内容が似ているものも多いとおっしゃっていたので、活用しづらいものがあれば別のものに変えていったり、それぞれのアンケートの目的に照らし合わせて一度整理をするのも良いのではないかと思います。いずれにしても、負担感のほうが強くなってしまふのは辛いと思うので、むしろ活用したほうが教育の質を上げることにつながっていくというような設計をしていけたら良いのではないかと思います。

(事務局：高取学校教育監)

今の支援の話とは少し逸れるかもしれませんが、野口委員のお話にもありましたように、箕面市では、昨年度からアンケートや調査を見直しているところで、子どもたちに実施するものだけでなく、教員や管理職を対象にしたものも含めて一斉に調査をしています。ですので、本当に有効に活用できるのか、今後どのようにデータを活用していくのか、それから調査の方法についても、現場の意見を聞きながら教育委員会で検討している状況です。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

何よりも、データをどのように有効活用していくかということが大事ですね。

では、次の視点に移らせていただきます。

次に検討の際の視点として挙げられている4ページの「通級指導教室担当教員の育成について」、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。何かございますでしょうか。

(新居委員)

昨年度、通級指導教室担当教員が巡回や兼務になっていて、色々大変なことがあるとお伝えさせてもらって、今年度は複数配置にいただきまして、本当に動きやすくなり感謝しています。多くの学校が複数配置になって、現在は、小・中学校合わせて39名の通級担当者がいます。人数が増えたのはとても良かったのですが、39人のうち約3分の1が3年目以上の教員で、約3分の2が1年目や2年目の教員ということで、人数は増えましたが半分以上は1年目や2年目の新しい通級担当者で、どのように育成していけば良いのか私たちも日々悩んでいるところです。また、箕面市には計22校の小中学校がありますが、うち15校は3年目以上の通級担当者がいるので、複数配置の学校の場合は、ベテランの先生が新しい先生に教えると

いう体制が構築できますが、他の7校は複数配置であっても1年目と2年目の先生だけという状況なので、長く通級指導教室担当教員を続けていただくことで、その学校の中で色々な育成が実施できるのではないかと感じています。

(文委員)

先ほど新居委員がおっしゃったように、複数配置校の中でも、経験のある先生が在籍している学校は、ある程度の体制が形成されて指導が進んでいくと思うんですけども、一方で、未経験の先生で構成されているような学校については、通級担当者会の中でお互いフォローをしながらやっていく必要があると思っています。

また、新居委員のお話にもあった、長く通級指導教室担当教員を続けていただくという部分で申し上げますと、箕面市は同校での勤続年数が最大6年という縛りがあるので、そのなかでどのように研修や経験を積んでいくのか、今後気になる点だと感じております。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

他に、何かこの件に関してご意見、ご質問はありますでしょうか。

(小田委員)

他の市からも色々聞いていることなのですが、通級指導教室担当教員が増えることは喜ばしいけれども、校内人事で支援学級のベテランの先生が通級指導教室担当教員になって、支援学級のベテランの先生が少なくなったり、支援学級担当に講師が多くなっているということは、特にないのでしょうか。支援教育の観点からいいますと、やはり支援学級と通級指導教室の双方の充実が大事になりますので、支援学級のほうにしわ寄せが来るという問題は、特にないのでしょうか。

(楠橋委員)

支援学級の先生が通級指導教室の担当になってしまうから、支援学級の先生が少なくなるという事例ばかりではないと思います。支援学級も児童生徒数が増えていますので、支援学級の先生が足りない分、どうしても若い先生や講師の先生が増えてきているのは事実だと思いますが、必ずしも通級指導教室に移ってしまわれたというばかりではないと思います。支援学級でも、担当教員の育成については、先ほどお話にあがりました通級指導教室担当教員と同じように、研修や学習する機会の提供が必要ではないかと思っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

小田委員、何かご意見、ご質問はございますか。

(小田委員)

先ほどのご説明で問題ありません。そのような事例は少ないと感じておりましたが、支援学級と通級指導教室の双方の充実が大事だと思い、質問させていただきました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。ぜひ、通級指導教室担当教員の複数配置を継続していただき、また必要に応じて増やしていただくという方向で、箕面市の教育を充実させていただきたいと思います。

では、次の検討の際の視点に移ります。8ページの「箕面市リーディングチームを充実させるためには」「校区、地区単位で支援教育のリーダーを配置する必要性について」の2点につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。せっかくですので、リーディングチーム等に長年関わっていただき、またアドバンス研修にもお力添えいただいている小田委員より、ぜひご意見いただきたいと思います。

(小田委員)

ありがとうございます。もともとリーディングチームは、リーダーになるチームということで名前がつけられていますので、リーディングチームの充実は、支援教育のリーダーを育てていくという意味もあると思います。アドバンス研修は、まさにその役割を担っており、自分の力をつけるだけでなく、その力を様々な形で学校や市に還元して伝えていながら、リーダーになる人たちを育てていくことが大きな目的で、大事なことだと思います。

また、先ほどのお話にもありましたように、教員の転勤や新しい教員との入れ替えもありますので、やはり誰かリーダーがいるというのが非常に大きな意味を持つと思います。市のほうも指導主事がどんどん変わるので、学校にリーダーを配置しておくことで、積み重ねたものを継続的に行うことができると思いますので、リーダー配置は必要だと思います。これからぜひお願いしたいと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

他に、何かご意見、ご質問はございますか。

(城内委員)

校区、地区単位で支援教育のリーダーを配置する必要性についてですが、昨年度、私自身もリーディングチームに参加させていただき、色々なアセスメントや支援の方法を検討させていただきました。学んだことを自校の支援体制でも活用し、自校の支援体制が良い方向に変わっていくのを実感できて、とても良かったと感じています。一方で、もし支援教育のリーダーの配置が校区単位になった場合、リーディングチームの先生が校区の巡回相談に出向くことで自校の通級指導ができない日があまりに多くなってしまうと、それは問題だと思いますし、巡回相談等を各校区内で実施することで、先生の負担が大きくなるのではないかと気になっております。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

自校のことがおろそかになってしまうと本末転倒になりますので、今の意見は非常に大事なことだと思いますが、事務局のほうからこの件に関しまして何かございますか。

(事務局：田口室長補佐)

令和6年度より、大阪府の事業をうけてリーディングチームの育成に力を入れており、先ほど城内委員から話がありましたように、学校での還元と活用というところで非常に効果的だったというお声をいただいております。

校区、地区単位で支援教育のリーダーを配置する必要性については、支援教育に関する相談を身近な方に、継続的に、すぐに相談できますし、校区や地区単位で相談できる人がいるというのは、相談者の安心感にもつながると考えております。令和8年度以降の方向性について、先ほどお話にありました支援教育のリーダーの負担も考慮しつつ、相談してよかったと思えるような人が近くにいう体制を考えることが、求められるのではないかと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

安心できる人の存在は非常に大きいと思います。ぜひ、そのような方向性で進めていただけますと幸いです。

では、続きまして「2. 教職員の在り方について」でございます。事務局より、説明をお願いいたします。

(事務局：田口室長補佐)

○資料1（2. 教職員の在り方について）に基づいて事務局から説明。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

ただいまの説明について、皆様よりご意見、ご質問をいただきたいと思います。まず、検討の際の視点として挙げられている10ページの「免許取得者が講習で身につけた専門的な知識を校内等で還元するためには」について、何かご意見、ご質問はございますか。

(辻野委員)

まず、箕面市支援教育方針が策定されてから、全ての先生に支援教育を理解してもらおうということで、沢山の研修が実施されて本当に感謝しております。これまでは、支援教育について、支援が必要な児童生徒のみに関する教育だと思っている教職員が多かったと思いますが、今は研修のおかげで、全ての子どもにとって平等で一貫性のある教育を進めていくのが支援教育だということが、かなり浸透してきたのではないかと思います。

また、先日、大阪府支援教育研修会の豊能支部の総会で、大阪府教育委員会の支援教育課の方とお話をさせていただき、箕面市はかなり学びの場の見直しが進んでおり、支援学級から通級・通常学級へという学びの見直しをしたけれども、また支援学級に戻るということがないとのことで、通常学級の受皿がしっかりできていることを評価していただきました。通常学級の受皿をしっかり作ることができているのも、研修によって全ての教職員が学んでいることが大きいのではないかと感じています。

そして検討の際の視点について、免許取得者は、基本的にどの学校でも支援教育コーディネーターの役割を果たしているのも、これにより専門的な知識の校内等での還元が進むのではないかと思います。免許取得者を支援教育コーディネーターに位置づけることで、先生たちが何か困った際に、支援の手だてを支援教育コーディネーターに相談している姿を校内でよく見るようになっていきますので、校内で支援教育の中心になる先生をきちんと位置づけることで、先生がたが支援教育コーディネーターに相談をして、情報がそこに集まっていくという体制の構築が進んでいくのではないかと考えております。

(金城委員)

先ほど辻野委員がおっしゃったことと似ているんですけども、とどろみの森学園は、昨年度も今年度も、免許講習や支援学校の派遣研修に参加させていただいた教員がおり、市で設定されている施策を非常に活用させていただいています。やはり支援教育に関しては、知識的な部分やスキルの部分が非常に大きく、日頃仕事をしている中では学べない部分もあると思いますので、講習や派遣研修に参加した教員も、学びになって非常に良かったと感想を言っていました。参加した教員は2名で、1名は現在支援教育コーディネーターを担当しており、学んだことを支援教育コーディネーターとして同僚の教職員への指導に十分に生かしていて、素晴らしいと思います。講習や派遣研修に参加した教員が学んだことを学校に還元し、他の教職員が自校で学びを得られるというのは、若手で経験が少ない教職員にとっても、非常にありがたいことだと思います。もう1名は、今年度若手の教員が参加しているのですが、将来的に、自校や次の赴任校で支援教育コーディネーターになるかもしれないですし、現在支援学級担任をされているので、その実践に生きてくる部分もあると思います。どちらにしても、やはり研修を受けることには大きな意味があると思いますので、色々な形で校内に還元していけるのではないかと考えています。

(俵積田委員)

第二中学校は、支援教育が安定しないと学校が落ち着かないということで、支援学級担任のほとんどを教諭で構成しております。ご自身で支援学級担任を希望した先生もいますし、こちらが支援の先生に向いていると考えて、支援学級担任になってもらった先生もいます。先生がたのなかには、支援教育に関わるなかで、特別支援学校教諭免許を持っていないことが悩みで講習や派遣研修に行って学びを得たいという思いを強くもっている方もおられますので、市の制度や施策は毎年活用させてもらっています。これらの講習や派遣研修に参加される先生が学校の中で増えてきて、先生がたの雰囲気がさらに安定して学校全体が良くなっていると感じますし、先生同士のコミュニケーションも増えているように思います。本校は、小規模校になっ

ている状況もあって、支援学級の先生がどの学年の子どもたちも対応しておりますが、どのような支援をしていけばよいのか先生同士で話し合う際に、講習や派遣研修で勉強したことを周囲に教えたり共有している様子が見られますので、市の制度は非常に良いと思っています。また、現在は支援学級担任ではないけれども、特別支援学校教諭免許を取得して、次の学校では支援学級へいきたいと思っている先生もいますので、取得ができれば、その先生が次校では必ず支援学級担任の核になってくれると思いますので、この制度は良いと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

3名の校長先生のお話を伺って、免許取得者が講習で身につけた専門的な知識を学校に還元するためには、やはり管理職の先生がたのリーダーシップが必要になると思いました。

では続きまして、「3. 人権意識と障害理解について」でございます。事務局より説明をお願いします。

(事務局：田口室長補佐)

○資料1（3. 人権意識と障害理解について）に基づいて事務局から説明。

(伊丹委員長)

ご説明いただきましてありがとうございました。

ただいまの説明に関しまして、ご意見、ご質問はありますでしょうか。まず、検討の際の視点としてあげられている13ページの「SDQの結果を効果的に活用するために必要なことは」について、ご意見、ご質問はございますか。この件につきましては、野口委員が参画されておりますので、何かご意見いただけたらと思います。

(野口委員)

SDQ (Strengths and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート) の実施の経緯としては、去年はi-checkの活用をさせていただこうと思っていたのですが、学術的な側面や科学的根拠という部分で難しさがあり、あまり効果的な活用ができなかったため、今回SDQという、世界中で活用されていて明確に分かるエビデンスがあるアンケートを提案しました。これまでの箕面市支援教育充実検討委員会で決定した色々な施策を、現在市政で進めていただいておりますが、これらの施策や研修は実際にどのような効果があったのかというところが、今見えづらい状況にあると思っています。感覚としては何となく良さそうだと感じていると思うんですけども、より科学的根拠のあるデータを活用していけると良いのではないかと考えております。例えば、スクールワイドPBS (Positive Behavior Support：学校全体で取り組むポジティブな行動支援) の導入を、実際に検証加配校で行っていただいておりますが、それが実際にどのような成果につながっているのかということも、SDQを用いて明らかにしていけたらと考えています。私たちとしては、先生がたにとってすごく負担になってしまうのであれば、すぐにやらなければいけないというものではないと思っていますので、また人権施策室の皆様と相談して考えていきたいと思います。先ほど、教育委員会でアンケートや調査を見直して整理しているというお話もありましたので、それを踏まえてSDQの実施を検討していくことも可能ではないかと個人的には思っているところです。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。今後、SDQを活用していただけるとありがたいと思っておりますけれども、その大元にある人権意識と障害理解について、保護者会のかたからもご意見いただけたらと思います。当事者として、お子さんがそのようなことで困っているというのを聞かれたり、そういったことはございますでしょうか。

(ゆうやけの会代表)

自分の子どもに関しては、今年で支援学級に入らせていただいて2年目になりますが、先生がたが丁寧に対応してくださっているので、できることが毎日増えていっているのが実感でき

て、支援学級に入ってよかったとすごく思っています。私も仕事等の関係で、子どもに対してできることとできないことがある中で、先生がたにそのような対応をしていただけて、大変ありがたく感じています。一方で、他の保護者のかたと話をすると、担当する先生によって内容に結構違いがあるというような話も聞くことがあります。これは仕方ないところもあると思いますが、ある程度子どもたちが受ける内容が同じになったらありがたいと思います。今回、保護者の会の代表をさせていただいているなかで、そのようなお話を聞きましたので共有させていただきます。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

ぜひ、そのようなことがありましたらご報告や共有をしていただけたらと思います。

続きまして、つばさの会のかたからご意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

(つばさの会代表)

個人的な話になりますが、私の子どもは人とのコミュニケーションがとりづらいということがあつて、小学校の頃から、人と接するにあたって何をすることが最適なのか、支援の先生に色々と相談させてもらっています。現在も、コミュニケーションの部分の成長がなかなか難しい状況なので、先ほどゆうやけの会の保護者の方もおっしゃっていたように、先生によって対応の仕方が違うと、少し大変な部分があると感じています。また、毎年支援の担当の先生が変わるので、せっかくこの支援の先生に慣れてきたのに、学年が上がると先生が変わって、また一から、まずは先生に慣れることから始めることになり、子どもにとっては他の子たちとのコミュニケーションが第二になってしまっているのではないかと思います。子どもにとって本当に成長していかなければならない部分が、第二になってしまっているように感じて、悩んでいるところです。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

やはり、コミュニケーションが苦手な子というのは、変化に弱い子でもありますので、先生が変わると不安定になって慣れるまで時間がかかるというのはもっともだと思います。この辺りのことも、また子どもたちのために考えていかなければならないですね。

では、議事全体に戻りまして、これまで色々言っていただきましたことに関しまして、ご意見やご質問はありますでしょうか。

(新居委員)

お話を聞いて感じたことと、先ほど言いそびれていたことが、あわせて三点あります。

一つ目は、8ページに検討の際の視点としてあげられている「箕面市リーディングチームを充実させるためには」について、支援教育の指導主事を、同じ方が長く続けてくださることが大事だと思います。現在は、田口指導主事が担当してくださっていますが、今年で4年目ということで、過去は箕面市の支援教育の指導主事の方が毎年変わられることが続いていたたり、あまり支援教育を経験されていない方が支援教育の指導主事をされるということがありましたので、やはり支援教育について詳しく知っておられる方が、長く指導主事を続けてくださるというのが、リーディングチームの充実につながるのではないかと感じています。

二つ目は、研修の充実について、箕面市では色々な種類の研修をしてくださっていますが、当事者や当事者の保護者の思いを聞く機会を設けるということがすごく大事ではないかと思います。それ以外のところが本当に充実しているので、保護者の思いや当事者の思いを聞けるような機会があれば、若い先生がたの育成にもよりつながると感じています。

三つ目は、今回の話題にはありませんでしたが、支援教育支援員について、今年度はなかなか大変な状況のなかで、支援学級の子どもたちだけでなく通級指導教室の子どもたちのことも見てくださっています。通級指導担当者が、なかなか手が回らず入り込みのサポートが出来ないんだけれども、子どもが授業で困っているというときに、支援教育支援員が声をかけてくれて、一緒にやって上手くできたということがあり、すごく助かりました。支援教育支援員が、

忙しくて大変な中でも、支援学級の子どもだけでなく通級指導教室の子どもも見てくださっているというのをこの場でお伝えしたいと思いました。

（俵積田委員）

皆さんがおっしゃっているように、私たちも学校で、長く同じような支援教育の校内体制を続けられるように先生がたを配置したいと思っておりますが、どうしても先生がたの年数制限というのが響いてきています。第二中学校では、来年度、年数制限によって一斉に先生がいなくなってしまう状況があるので、今後安定した校内の体制を構築しようと思うと数年間は必要だと感じております。そのあたりは、市教育委員会にも柔軟な対応をお願いしたいという思いがあります。

また、今一番悩んでいるのは、支援教育支援員の各校の配置数の割り当てについてです。支援教育支援員の人数については、市の中で支援が必要な生徒数に応じて、人数の割り当てがありますが、一人の子どもに対して五人がかりで対応しなければならない場面もありますので、そのような場合、なかなか他の子どもたちの支援に回ることが出来ない状況があります。ですので、支援教育支援員の人数の割り当ての際には、実際の状況を考慮した公平な人数配分を、柔軟に検討していただけたら、さらに充実していくのではないかと考えております。

（伊丹委員長）

ありがとうございました。

ちょうど支援教育支援員の話が出ましたので、そのあたりも含めて、支援教育支援員の小山委員と末廣委員から、ご意見等いただけますでしょうか。

（小山委員）

先ほど俵積田委員がおっしゃったように、支援教育支援員については、支援学級の子どもたち以外にも通級指導教室などの子どもたちも見れるようになって、本当に良かったと思っております。しかし実際のところ、支援学級在籍の子どもの数が非常に多く、他の子どもたちの対応を十分にできているとはいえない状況です。私も今日、1クラスに支援が必要な生徒が5名いるような学年に行きましたが、子どもが安心して、安全にけがのないように1時間の授業を対応しようと思うと本当になかなか難しく、俵積田委員がおっしゃったように、支援教育支援員の人数の充実をぜひ検討していただきたいと日々思っております。

（末廣委員）

先ほど俵積田委員がおっしゃっていたことについて、同じ学校で支援教育支援員をさせていただいているので、共感しながらお話を聞いておりました。支援学級担任の数は、学級数に応じて決められているということは理解していて、それも考慮したうえで、支援教育支援員の人員配置数も決定していくと思うんですけれども、やはり支援学級在籍の児童生徒数という観点だけではなく、子どもの実態に応じた人員の配置は本当に願っているところです。これはどの小・中学校でも、そのように考えているのではないかと考えています。もちろん、現場の先生がたや支援教育支援員等も日々努力していますが、どうしても手が足りなくなってしまうことがあり、本来見てあげないといけない子どもに対して必要な支援を行うことができないので、支援学級担任とともに悩んでいるところです。

また、先ほど小山委員もおっしゃっていましたが、支援教育介助員から支援教育支援員に名称が変更されたと同時に、支援に介入できる児童生徒の対象が広がり、これまでは支援学級在籍の児童生徒とされていたのが、優先順位はありますけれども、支援学級在籍の児童生徒に限らず、どの子どもに対しても支援の声かけをできるようになったので、本当に良かったと感じています。今までは、よく困っている様子を見かけるけれども、支援学級在籍ではないから声をかけられないという児童生徒もいて、声をかけていいものか迷いながら仕事をしているときもあったのですが、このような変更があって堂々と子どもたちに声をかけていけるようになって、本当に仕事がしやすくなりましたし、同じような意見も支援教育支援員の中から沢山出ております。一方で、どの子どもに対しても支援の声かけをできるようになったということといいますと、今学校では人員が足りていないこともあって、支援学級在籍の子どもがいないクラス

には、支援が必要だと思われる子どもがいたとしてもシフトに誰も入っていないということがあります。そうすると、私たちもその子が困っていないか気になっていても、クラスの様子を見に行くことができないので、そこが悩んでいるところではあります。

そして、研修について、支援教育支援員に対しても研修を受講する機会を沢山設定していたでいて、勉強する機会が増えて本当にありがたく思っています。研修の内容についてですが、支援教育支援員は、任期付職員・会計年度任用職員にかかわらず経験年数が幅広いので、全員が同じ内容の研修を受けるというよりは、経験年数に応じて困っていることや知りたいこと、勉強したいことも変わってくると思いますので、講義型や事例検討もすごく勉強になるんですけども、経験年数に応じた知りたいこと・学びたいことを学べるような研修があれば望ましいと感じました。人権施策室でも、また一緒に考えていきましょうと言ってくださっているので、そのような研修も増えていくと嬉しく感じております。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

実態に応じた配置や研修のあり方など、大事なポイントを言っていただいたと思います。ありがとうございました。

指導主事の皆様も、今後も末永く委員会に携わっていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、「案件2. その他」について、事務局から何かありますでしょうか。

案件2 その他について

(事務局：田口室長補佐)

次回の委員会の開催につきましては、令和7年11月17日(月)を予定しております。開始時刻及び開催方法につきましては、18時30分からZOOMにてオンラインでの開催といたします。詳細が決まりましたら、改めて事務局よりご案内いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、本日の案件は全て終わりましたので、令和7年度第1回箕面市支援教育充実検討委員会を閉会します。

皆様、本当にありがとうございました。